株式会社グローバルダイニング【7625】

2026 年 12 月期第 2 四半期（中間）決算説明会 質疑応答 要旨

（2026 年 8 月 7 日開催）

※一部訂正あり。訂正箇所には下線を引いております。

■質問：PAGA 訴訟についての概要を教えてください。

【回答：代表取締役社長 長谷川】

PAGA は 20 年以上前にできたカリフォルニア州の法律です。カリフォルニアには厳しい労働法があり、一定時間ごとに休憩を取らせなければならない、従業員の食事の時間を確保しなければならないなど、さまざまな規定があります。それらが守られない現状を行政が見て、作られた法律です。

従業員が 1 人、これに関して訴訟を起こすと、全従業員が集団訴訟を起こしたのと同じように扱われます。例えば従業員が 100 人いれば、補償が認められた場合には 100 人分を支払わなければならない仕組みだと理解しています。

この訴訟が急に活性化し、PAGA 裁判に負けて数百万ドル規模の支払いを命じられた飲食店会社が閉鎖や州外への移転、廃業に至った事例もありました。あまりにも悪影響が大きかったため、昨年 6 月に法律は修正されました。当社が訴訟を起こされたのは昨年 3 月で、改正前の事案に当たります。改正後は相手側の態度も多少軟化したと思いますが、最終的な金額はまだ分かりません。

【執行役員最高財務責任者 中澤】

訴訟リスクについては、現時点では昨年開示した金額（見通し）から変更はありません。

＝＝＝

（参考）2025 年 8 月 29 日開示内容

子会社 の代理人弁護士より、和解金は$126,625～$759,990 となる見通しである旨の報告を受けております。

※調停でのやり取りに基づいた見通しであり、この範囲で確定することが保証されているわけではありません。

＝＝＝

■質問：コロナ前と今とで、若い世代の人材の変化をどのように感じていますか。

【回答：長谷川】

日本はここ 35 年ほど円も下がってきて貧しくなってきた感はありますが、依然として豊かな国ではあると言えると思います。戦後以降、私たちが若かった頃のハングリー精神は、以前より薄れている面がある。物的にはかなり満たされており、欲しいものが手に入らない環境ではなくなっているためです。

ただ、本当に頑張る人は、物を得るためだけではなく、自分の精神的な充足感を得るために一生懸命頑張るという部分は、昔も今も、コロナ前もコロナ後も変わらないと思います。一方で、そうした意欲を持つ人は少数派ではあると認識しています。

■質問：たまプラーザへの出店について、現在決まっている出店概要を教えてください。

【回答：長谷川】

たまプラーザでは、実は当社は約 22 年間にわたり大型のモンスーンカフェを運営しており、多くのお客様に支持をいただいていました。しかし、定期借地契約を延長できず、閉店しました。

その当時のお客様が今回のビルオーナーであり、オーナー側からモンスーンカフェを出店してほしいというお話をいただきました。立地が良く、他社との競合もありましたが、当社が出店権利を得ました。

来年上期中のオープンを予定しています。約 100 坪のスペースが 2 区画に分かれているため、モンスーンカフェとラ・ボエムを出店する予定です。場所はたまプラーザ駅前の東急百貨店の裏側で、駐車場出入口の斜向かいにあり、立地としてはかなり良い場所だと考えています。

■質問：インバウンド需要について。権八西麻布店とお台場店の外国人客の売上構成比、客単価を可能な範囲で教えてください。また、国内事業全体の売上または営業利益のうち、インバウンド需要によるものをどの程度と認識していますか。

【回答：長谷川】

権八西麻布店については、実際にどなたが支払っているかという売上ベースでは正確に把握できませんが、来店人数で見ると 90%を超えるお客様が外国人です。

コロナ禍では外国人のお客様がゼロになり、売上は現在の約 8 分の 1 まで落ちました。コロナ前も外国人のお客様は多く、外国人が約 6 割、日本人が約 4 割でした。なぜそうなのかというと、ほぼ予約で

年間を通じて埋まってしまうからです。観光客は早い時期から予約を入れます。貸切の場合は 1 年前から予約しなければ取れないこともあります。

当社としては常に日本人のお客様を意識した価格設定をしています。外国人客中心だからといって、外国人向けに価格を引き上げるような対応はしていません。アメリカ人の知人からは、「この価格で商売になるのか」と言われることもあります。

お台場店については、一度インバウンド需要が落ち込み、その後やや戻ってきています。正確な数字は分かりませんが、外国人客の構成比は半分まではいかないだろうと思います。週末には外国人のお客様がかなり増えていますが。

インバウンド全体では、イラン侵略戦争が始まった頃から潮目が変わったと見ています。6 月にはインバウンド客数が 6%以上減少したという統計が出ており、7 月もまだ元に戻った感覚はありません。権八西麻布店はほとんど影響を受けていませんが、渋谷店は影響を受けています。権八が集客を強く牽引していた状況がやや変化している背景には、インバウンド客数の停滞があると考えています。

■質問：2026 年 12 月期の下期は出店ゼロという認識でよいでしょうか。

【回答：長谷川】

その認識でよいです。開店が決まっているところは 3 店舗ありますが、いずれも来年前半のオープンになる見込みです。

以上